

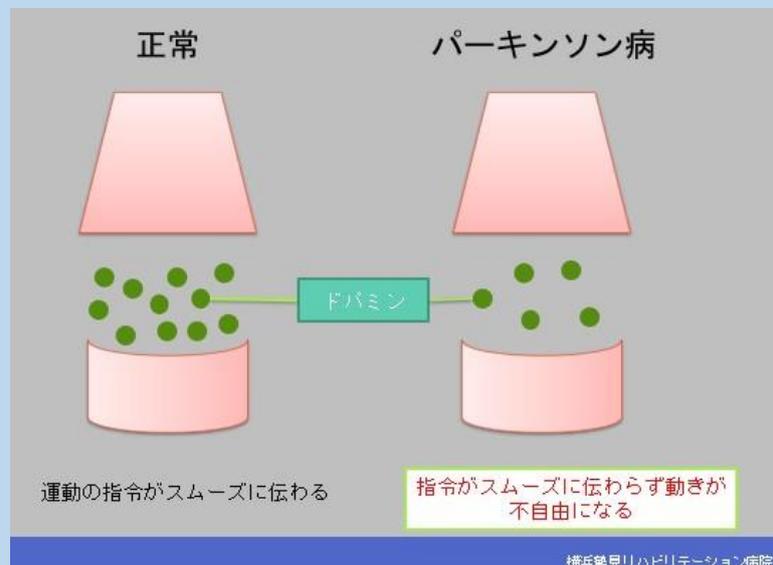
# パーキンソン病とは？

パーキンソン病とは1817年ロンドンの医師ジェームズ・パーキンソン氏が報告し、多くは50-60代で発症する疾患です。一部若年性や家族内発症であるといわれています。有病率は65歳以上では100人に1人とされています。症状はこわばり、ふるえなどの運動の障害に加えて、うつや認知症、自律神経障害などもみられます。

夏目漱石など有名な方がパーキンソン病を患っていたというのは有名ですね。

## <原因>

様々なことが言われておりますが、大脳の下にある中脳の黒質ドパミン神経細胞が減少して起こるとされています。ドパミン神経が減ると体が動きにくくなり、ふるえが起こりやすくなります。ドパミン神経細胞が減少する理由はわかっていないようですが、ドパミン神経細胞の中に $\alpha$ シヌクレインというタンパク質が凝集して蓄積し、ドパミン神経細胞が減少すると考えられています。近年では、脳・脊髄などの中枢神経系のみでなく、様々な臓器を支配する自律神経系に広汎な変化が見られることが分かっています。



## 主な症状

- 振戦（ふるえ）
- 固縮（こわばり）
- 無動（動きが少ない）
- 姿勢反射障害（バランスが悪く転ぶ）

運動症候

四徴

- 認知症
- 精神症状（うつ、幻覚）
- 自律神経症状（便秘、立ちくらみ、睡眠障害）
- 嗅覚障害etc...

非運動症候

横浜鶴見リハビリテーション病院

### <振戦>

- 振戦：3～6Hz の振戦
- 患者の 60%に初発する症状
- 人差し指、中指を母指球にこする形の振戦
- 安静時振戦と姿勢時振戦がある
- 安静時振戦は、緊張や作業により増悪する
- 動作をした時や同じ姿勢を維持した時に出てくるふるえは、姿勢時振戦という
- パーキンソン病の姿勢時振戦には、動作を開始すると止まり、同じ姿勢を保持すると改善し、その後

また出てくるという特徴がある



### <筋固縮>

- 主に屈筋群（肘が曲がる、膝が曲がる方向）に出やすいため、前かがみ姿勢をとりがちになる
- 関節を動かそうとすると、「鉛管様」、「折りたたみナイフ様」、「歯車様」の固縮（筋肉が硬くなる）がみられる
- いくつもの筋肉が同時に働いてしまい、運動が難しくなる
- 無動
- 書字困難症（書いた文字が1字1字小さく不規則になる）
- 動作緩慢
- 表情が乏しくなる（仮面様顔貌）



### <姿勢反射障害>

- 特に起き上がりや寝返り、いざり動作（ベッド上を動く）で問題となることが多い
- 特徴として、「身体を捻ること」ができず、「直線的な動きになる」ことが多い

### <歩行障害>

- 歩幅が小さくなる小刻み歩行となる
- 歩行開始時のすくみ足となる
- 歩行途中にコントロールを失い、足がとまらなくなる加速現象がみられることがある
- 方向転換が苦手な6ステップが20ステップになってしまう

